

# 西京塾講座を 振り返って

## 塾生の 感想文

塾生を代表して5名の方に、  
講座全体を通じての感想文を  
書いていただきました。



### A グループ……上羽実知代

「西京塾って知ってる？一緒に勉強してみない？」と、友人からの一言。それまで西京塾を知らなかった私に活動内容をまとめた冊子を見せてくれました。

そこには塾生の皆さんが目と耳と足で集められた手作りの温もりを感じる内容がありました。そして、このメンバーの一人として私も参加させていただきたいと思ったのです。また、今回のテーマがエコロジーと知り、ますますその気持ちは膨らみました。

一主婦として毎日大量に出るごみの量にうんざりしていた私。ごみ袋の有料化、地球温暖化防止のための京都議定書の発効など、エコロジーは今の私にとって大変興味深いものでもありました。

塾生としての1年がスタートし、各講座でお話をおうかがいするたび、感心すること感動することがたくさんありました。

西京塾に参加していなければ行く機会はなかったであろう京エコロジーセンターや東部山間埋立処分地などの施設見学では改めて京都のごみ減量化について考えさせられました。

今回A班として「自然を愛し、後世に残すために」というテーマで、グループの皆さんと水質調査をしたり、千代原でかやぶき屋根や元気に金魚の泳ぐ用水路を見学することで今一度自分達の身近にあるすばらしい自然を見直すことができ、貴重な体験となりました。

便利さだけに走らず、不便さの中にある美や自然との共生のすばらしさを忘れてはいけません。

未来を担っていく子ども達、この愛する子ども達に美しい地球、心和み体に優しい自然を残していくことは私達大人の役割であり義務であると思いました。



## B

グループ……上田雅子

「貝塚って古代人のごみ捨て場やったんやて」中学の歴史で習ったことを得意気に娘が話してくれました。目からうろこでした。古代の人々の生活を知るうえで貴重な遺跡も元をただせばごみ捨て場、考えてみれば当然のことでした。人が生きていくうえで必ずごみは発生します。ただ、ごみの内容が問題なのです。

20世紀に入り、車社会の到来とともに石油製品が私たちの日常生活に欠かせなくなりました。でもこれこそが大気汚染や環境破壊を招く元凶となってしまいました。

「地球温暖化」。いまや小学生でもよく知っている言葉です。私の子どもの頃の京都は本当に寒かった。京町家で育ったのでエアコンもなく厠(かわや)(あえてトイレではなく)の手水に張ってある水が完全に氷、当たり前のことでした。幼少の頃はそれこそ暖房は火鉢のみ。枕草子の冬はつとめて…に表される寒さが平安時代からつい私の幼少時まで続いていたのです。

氷山が溶け出し、海面が上昇。世界各地で報告されている異常気象。人間だって病気になると熱が上がって身体がだるくなる。地球も今、同じ症状に陥っているのです。

温暖化の原因と言われるCO<sub>2</sub>の大量排出国のアメリカや、経済発展を遂げつつある中国やインドの動向が気になります。気になりつつ、今自分にできること、それを足元から見つめ直すきっかけを西京塾で教わった気がします。

私のごみを意識し出したのは学生時代にさかのぼります。「ごみ袋持参で楽しいハイキング」。たまたま応募した市の標語募集に佳作に入選。万年筆とゴミ戦争という本をいただきました。結婚してごみを回収に出す立場になりその気持ちはもっと強くなりました。今回塾で知り合った方たちのごみに対する意識の高さは私を大いに励ましてくれました。今自分にできること。そんな輪が広まってくれるといいな、そんな風に思った西京塾でした。



今年度実施されたいくつかの施設見学を中心に、感じたこと、考えたことについて書かせていただきます。南部クリーンセンター、南部資源リサイクルセンターでは、第一声が、「わあすごい！ごみの量」で、驚きと危機感がこみ上げました。これまでもごみ減量化は新聞、テレビ等で言われておりできるだけごみを出さないようにと生活してきたつもりでしたが、まさに、「百聞は一見にしかず」です。第2回目の講義で生ごみのたい肥化方法を教えてもらって以来、現在ではごみの量は少なくなり喜んでいきます。今心がけているのは、よく考えて必要なものだけ買うようにすること。買った物は使い切るようにすること、捨てる前にもう一度再利用できないか考えてみることです。京エコロジーセンターで体験させていただいたように、残り布1枚、切れ端1枚でも創意工夫で別の新しい物に変身するわけで、楽しみながら取り組むことで、ごみ減らしも長続きするのではないのでしょうか。最後に、嵯峨野にあるアイトワの施設見学では、まず広い敷地に驚き、うらやましい気持ちになりました。自然の恵みを存分に受けとめ、私が、理想とする生活そのものを、見学させていただき、実行可能な条件の中でまねさせてもらっています。昨年12月、道路の落ち葉を掃き集めポリバケツに入れ、EMボカシやぬかをふり入れ腐葉土作りを試みたり、残った落ち葉は、庭の片隅に山積みそのままですが、いつか土に返っていくことでしょう。こうしてできた腐葉土、生ごみたい肥などで、畑とは名ばかりのプチ畑の土壌を改良して野菜作りに再挑戦したいと思っています。

今回の西京塾に参加させていただいて、日常生活がより理想へと近づくチャンスをいただいた気がしています。自然の恵みを大切に、感謝しながら心豊かに暮らしていきたいと思っています。



●平成16年度に引き続き、塾生として参加された方の感想文です。

## A グループ……村上梨恵子

平成16年度の実組テーマ「豊かな水と緑」の歴史と、平成18年度の実組テーマ「環境～環境に配慮したまちづくりをみんなで考えよう～」の2回に塾生として参加しました。

今回は「環境」というテーマの下で、南部クリーンセンターやエコランド音羽の杜などのごみ処理場の見学や、環境に配慮されて暮らしておられるアイトワへお話を聞きに行ったりといろいろと学びました。

私の思いとしては、西京区に残る西山の豊かな自然環境を、自分自身の足で歩いて目で見たいというのがあり、この2回の西京塾の参加の中で、多方面から系統的に知り得たことは大きな成果となりました。

初春は福寿草、桜の咲く頃はカタクリの花やギフチョウ、お盆の頃はオオキツネノカミソリと季節の移りゆく様子や小鳥や昆虫達との出会いを通じて、五感を持って現在体験しています。そして、西京区内に点在している古墳群や唐櫃越などの歴史の道、金蔵寺、松尾大社などの神社仏閣など…。

ただ残念なことは、心ない人によるごみのポイ捨てや不法投棄、貴重な植物の盗掘。また、地球温暖化の影響で山の動物が里に降りてこなければならないという現実…。

今回の西京塾で、西山の源流や神社の井戸など何か所かの水質調査を行い、西山の水はまだまだ生活排水などに汚染されずに自然の姿を現していることが分かり、この恵まれた環境をぜひ後世に残していかなければならないと強く思いました。

西京塾の塾生は、自ら積極的にテーマについて学び考え、区民の皆さんに発信する役割を担い、今回の塾生達もテーマごと小グループに分かれ、それぞれのテーマについて掘り下げ、自分達が区民の皆様方に伝えたいことを熱心に取り組み、学んできました。

私は16年度の西京塾修了後、「西京区まちづくりサポーター」として微力ながら区役所主催のイベントなどお手伝いさせていただき、その都度新しい出会いや発見をして学んでいます。



- 平成16年度、17年度、18年度と3年間にわたり塾生として参加され、また、今年度の講座においてご講演をいただきました「なんきんはぜの会」のメンバーでもある塾生の方の感想文です。

C

グループ……鈴木 綾



私が、西京塾に入ったきっかけは、市民しんぶん西京区版に募集が載っていたときです。「私でも入れるかしら？入れても続けられるかしら？」など、ちゅうちょしていた時期に、ある尊敬している方からの勧めがありました。肩を押されたような気持ちで参加させていただいて3回も続けてしまいました。毎回テーマがあってさまざまな分野の先生方のお話を聞かせていただき、個人ではなかなか見学させてもらえないような所も行っていただきました。

塾生の方々とのコミュニケーションも大切なことの一つですが、自ら学んでいく気持ちが何よりも大切であることを改めて知りました。ただ、この年になってまいりますと頭に残すことは随分無理があります。慣れないパソコンを使うのも頭の活性化にもなりました。しかし、楽しく学べたことが何よりも救いでした。そんなことで3回も続けられたのかも知れません。

3回も参加させていただいて一番感じたことは、西京区に住んでいながら地元のことをぜんぜん知らなかったり、発見することばかりだったことです。区民の皆さん、こんなことご存知ですか？なんて、伝えてあげたいことも随分ありますが、もっと、西京区の伝統文化を探求し、後世の子ども達に伝えていかなければいけないと思います。そんな機会を与えてくださっているのが西京塾のように思うのです。もっと多くの方々が自由に参加できて学べる塾であってほしいと思います。例えば、映像の分野で取り組んでいるグループだとか私達はこんなことを探求しているグループです、といったように、1年で終わらせないで何年もかけて研究や学習したことを発表するののも一つの方法ではないかと思います。そして、区民に向けて発信するのもいいでしょう。展示コーナーを設けたり発表会が行われたり冊子にまとめることも大切だと思います。

西京区30周年を機に、西京区の伝統文化・産業など後世に伝承する分野や、現在、私達が直面している現代の社会問題の分野などジャンルはたくさんあると思います。学ぶことは随分あります。それゆえに、1年だけで終わるのは大変もったいないように思います。

もっと時間をかけて学習したことを発表・発信できれば…と思います。